

兼松など 戦略的投資会社を設立 トレードワルツ 貿易基盤普及むけ

兼松は8月26日、トレードワルツ(重田和康社長、東京都港区)が提供する貿易プラットフォーム「トレードワルツ」を普及させるため、戦略的投資会社「TWRリンク」を設立した、と発表した。川西倉庫や鈴江コーポレーション(鈴江孝裕会長、横浜市中区)、大東港運、富士倉庫(坂口雅彦社長、同)と共同で出資。荷主と物流会社が一体となって課題抽出や解決に協力し、トレードワルツを日本の標準的な貿易プラットフォームに成長させていく。

兼松や共同出資各社は、自社の基幹システムをトレードワルツ経由でAPI(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)連携させ、自社のリソースを投入してトレードワルツの機能向上に向けた実務的なフィードバックを実施。トレードワルツの成長とともに、各社の物流DX(デジタルトランスフォーメーション)にも取り組んでいく。

兼松の宮部佳也社長は「荷主と物流会社が一心同体となって、日本の貿易力を高める新しい取り組みに期待して欲しい」と話している。(井内亨)